

カービュー マーケットウォッチ (2011年1月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー（本社：東京都中央区、代表取締役：松本 基）は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

乗用車全体の年間合計が6年ぶりに前年を上回る

10年 1～12月順位	09年 1～12月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	プリウス	トヨタ	315,669
2	(2)	→	フィット	ホンダ	185,439
3	(3)	→	ヴィッツ	トヨタ	122,248
4	(6)	↑	カローラ	トヨタ	111,265
5	(7)	↑	フリード	ホンダ	95,123
6	(4)	↓	パッソ	トヨタ	89,373
7	(20)	↑	ステップワゴン	ホンダ	80,934
8	(8)	→	セレナ	日産	75,040
9	(9)	→	ヴォクシー	トヨタ	72,163
10	(10)	→	ノート	日産	66,347
11	(14)	↑	デミオ	マツダ	65,949
12	(17)	↑	ヴェルファイア	トヨタ	61,015
13	(11)	↓	ウィッシュ	トヨタ	59,447
14	(15)	↑	ノア	トヨタ	56,955
15	(12)	↓	キューブ	日産	54,406
16	(16)	→	エスティマ	トヨタ	50,053
17	(24)	↑	マーチ	日産	49,193
18	(13)	↓	ティーダ	日産	46,825
19	(19)	→	ラクティス	トヨタ	46,540
20	(18)	↓	スイフト	スズキ	44,589

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■乗用車全体の年間合計が6年ぶりに前年を上回る！ 車名別ではプリウスが新記録で2年連続トップ

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した12月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽乗用車を含めた国内で販売された乗用車総数は23万9656台で、前年同月比74.5%と4カ月連続のマイナス。ただ下げ幅は前月より4.3ポイント縮小した。2010年の年間合計では421万2267台、前年比107.4%と6年ぶりに前年を上回った。9月にリーマン・ショックに見舞われた2008年の422万7643台と比べても、99.6%とほぼ同レベルまで回復。新車購入補助金制度やエコカー減税といった公的支援策は効果絶大だったわけだ。補助金制度は終了したが、エコカー減税は継続される2011年は、とりあえず前年越えが一つのポイントになるだろう。

輸入車を除く国産乗用車の販売台数は22万1113台（日産マーチ輸入分、軽乗用車含む）で、前年同月比は73.2%。年間合計では402万5858台、前年比107.2%で、特に3ナンバーの普通車が127万525台、前年比124.2%（日産デュアリス輸入分含む。5ナンバー小型車147万668台／前年比101.4%、軽乗用車128万4665台／100.1%）で2ケタ増と好調だった。メーカー合計では、全メーカー12月単月では前年割れだが、年間合計ではスズキを除き、前年比はプラスとなった。

全乗用車の年間ランキングでは、「トヨタ プリウス」が31万5669台、前年比151.1%で2年連続トップ。車名別の統計としては1990年「トヨタ カローラ」の30万8台を抜き、新記録を樹立した。2位は12月単月で僅差のバトルを展開していた「ダイハツ タント」に4000台超の差をつけた「スズキ ワゴンR」で、19万5105台（前年比96.8%）。3位はタントで19万1391台（131.6%）、以下、4位「ホンダ フィット」18万5439台（117.7%）、5位「ダイハツ ムーヴ（コンテ含む）」13万1859台（72.3%）、6位「トヨタ ヴィッツ」12万2248台（103.9%）、7位「トヨタ カローラ（アクシオ、フィールダー、ルミオンの合計）」11万1265台（123.4%）まで年間10万台超となっている。

また輸入車は、12月単月の海外メーカー製のみでは1万7956台、前年同月比96.6%と14カ月ぶりに前年を下回ったものの、年間では18万255台、前年比113.3%と5年ぶりにプラスに転じた。海外メーカーブランド別乗用車ランキングは、12月単月ではBMWが4271台（ミニを除く）で2009年12月以来のトップを奪取。年間ランキングではVW（フォルクスワーゲン）が4万6704台で11年連続輸入車ブランドNo.1を獲得。車名別年間ランキングでもVWゴルフシリーズが2万6075台で8年連続トップとなった。

■各ブランドの「ココも気になる！」

●レクサス：ハイブリッドカー人気で初の年間3万台越え

軽を除く乗用車販売に占めるハイブリッドカー比率が16.4%と前年比3.2ポイントアップとなるなか、ハイブリッドカーの優れた環境性能を新しいプレミアム感として訴求することに成功。年間合計で3万3365台、前年比118.5%と、本家トヨタの114.4%を超える伸び率となった。これで04年のレクサスブランド設立当初の年間販売目標、3万台を初めてクリアできた。そして今年1月にはレクサス初となるプレミアムコンパクトクラスのハイブリッドカー、「CT200h」を投入。月間販売目標の1500台をクリアできるか注目される。

●トヨタ：乗用車シェアが2.1ポイントアップ

2年連続年間トップの「プリウス」（前年比151.1%）をはじめ、「カローラ」（123.4%。3モデル合計）、「ヴェルファイア」（122.9%）、「アルファード」（120.8%）、「アイシス」（131.1%）、「マークX（ジオ含む）」（166.4%）、「SAI」（876.2%）と、ボディタイプを問わず2ケタ増を達成。トヨタ全体では141万4994台、114.4%と乗用車メーカー中トップの伸び率で、国内乗用車シェアは前年より2.1ポイントアップの33.6%となった。今年にはデトロイトショーで公開されたプリウス派生モデルの登場時期が気になるところ。

●日産：ニューモデルラッシュで前年比8.8%増

昨年6月発売の「ジューク」を皮切りに、7月「マーチ」、8月「エルグランド」、10月「フリーガハイブリッド」、11月「セレナ」、12月電気自動車の「リーフ」と、一気にニューモデル攻勢をかけてきた。いずれも目標を上回る売れ行きで、マーチが4万9193台で前年比156.5%、エルグランドも2万45台で284.0%と絶好調だ。これで軽を含めた乗用車全体で56万5784台、前年比108.8%と前年を上回ったが、問題は今年。セレナが1万台超の受注（月間販売目標は5400台）を集めているものの、目玉となるニューモデルがないとの噂があるのだ。

●ホンダ：3年連続で前年を上回る

軽乗用車が11万4796台、前年比85.8%と低調だったが、乗用車全体では59万9113台、前年比100.9%と3年連続で前年を上回った。商用車を含む販売台数でも僅差で日産をかわし、2年連続のNo.2の座を確保した。昨年は日本カー・オブ・ザ・イヤーを受賞した「CR-Z」のほか、7月に投入した「フリードスパイク」が月間販売目標2500台を軽くクリアする売れ行きで、セレナとガチンコ勝負を展開した「ステップワゴン」も8万934台でミニバンNo.1に。今年12月も8234台と好調な「フィットハイブリッド」が牽引役になりそうだ。

●マツダ／スバル／三菱：マツダのスカイアクティブに期待

マツダは7月にモデルチェンジした「プレマシー」が10月から3カ月連続で月間販売目標1800台を下回る低調ぶりだったが、軽を含む乗用車全体では19万5701台、前年比111.4%とプラスに転じた。スバルは基幹モデルの「レガシィ」が前年割れで、11月発売の「トレジア」も月間販売目標1000台に届かない状況だが、乗用車全体で12万2743台、前年比102.5%。

三菱は2月に投入した「RVR」が年間1万951台と堅調で、乗用車全体で13万1987台、前年比110.8%と2ケタ増となった。ニューモデルでは今年上半期に登場する新技術スカイアクティブ搭載の「デミオ」は要チェックだ。

●ダイハツ／スズキ：ダイハツが4年連続で軽No.1の座を堅持

車名別では「スズキ ワゴンR」に及ばなかったが、「タント」を筆頭に、「ムーヴ」、「ミラ」が堅調で、ダイハツは商用車を含めた軽自動車全体で60万2703台、前年比102.4%（全乗用車では47万7221台、100.5%）で4年連続軽メーカートップとなった。スズキは12月単月でワゴンRを1万4928台売り上げ、車名別No.1を守ったものの、軽全体では56万1492台、前年比101.6%（全乗用車は48万4878台、99.5%）にとどまった。ダイハツは12月にモデルチェンジしたムーヴが、スズキは新型「スイフト」の売れ行きがカギとなりそうだ。

●輸入車：海外メーカー製が5年ぶりのプラスに

VW、BMW、メルセデス・ベンツ、アウディのドイツ勢を中心に、新車購入補助金制度&エコカー減税適合車を充実させ、5年ぶりに前年比がプラスとなった。ただ人気が適合車に集中したことで、在庫不足を招き、終盤はやや失速。今年はインポーター単位の販売戦略が問われるはずだ。また1月に発表された「BMW ミニ・クロスオーバー」や「アウディ A1」といったワンランク上の個性派モデルをはじめ、「BMW 6 シリーズカブリオレ」などのラグジュアリー系までニューモデルが目白押しなのも見逃せない。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 広報・法務室 (pr@carview.co.jp)

tel: 03-5859-6158 fax: 03-5859-6180
